

授業科目名： 教育相談（中等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名 斎藤 やす子 担当形態：単独
実務内容	日本教育カウンセラー協会 上級教育カウンセラー 高等学校国語科教員		
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目では特に、B.問題が生起する現場において専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つことを中核として構成し、授業を行うこととした。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 教育相談の意義と理論</p> <p>学校における教育相談は教育活動として行われるものであり、授業展開のためにその意義と課題を明確に理解していることが求められる（到達目標）。</p> <p>このために学校心理学やコミュニティ心理学、カウンセリング心理学、臨床心理学等の基礎的な理論や概念を理解していることが求められる。</p> <p>(2) 教育相談の方法</p> <p>学校における教育相談は必ずしもカウンセリングと同じものではない。</p> <p>ただし、子どもたちや保護者等との教育相談を進めていくためには、カウンセリングで重要とされている受容や傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢（いわゆるカウンセリングマインドといわれるものも含む）や技法を理解することが求められている（到達目標）。</p> <p>子どもたち等の不適応行動や問題行動に初期あるいは早期に対応するためには、その意味やシグナル等を気づき把握するためにアセスメントの考え方や技法（方法）が求められている（到達目標）。</p> <p>(3) 教育相談の展開</p> <p>教育相談は地域の専門機関との連携の下で「チーム」としての学校が行うもので、その計画や校内体制整備等のコーディネーターとしての役割が求められている（到達目標）。</p> <p>いじめや不登校、虐待、非行等の諸課題には生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談を進める必要があり、校内でのコンサルテーション（作戦会議）を計画的に行い、それに応じて職種や校務分掌等で具体的な目標や進め方を決めることが求められている（到達目標）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では教師が中高校生やその保護者に対して効果的な教育相談を行うために必要な理論及び方法を実践的に理解することを目標にしている。そのために教育相談に関する歴史や</p>			

各国での実践、さらに各種の心理学理論等を広く取り上げるとともに、様々な地域の専門機関との連携の下に、生徒の心理社会面や健康面、進路面、学習面への指導援助を具体的組織的・総合的・統一的に展開する方法等を授業のテーマとしている。なお授業において、教員と学生、学生同士の相互の議論やロールプレイング・事例研究等を取り入れ、授業が具体的実践的になるように構成している。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：日本における教育相談の歴史と展望

第3回：アメリカを中心とする諸外国のスクールカウンセリングの歴史と実践

第4回：教育相談と学校心理学、コミュニティ心理学、臨床心理学

第5回：教育相談とカウンセリング心理学

第6回：教育相談における受容

第7回：教育相談における傾聴

第8回：教育相談における共感的理解

第9回：教育相談におけるアセスメント

第10回：コンサルテーションの理論と実際

第11回：教育相談におけるコーディネーターの役割

第12回：不登校への対応

第13回：いじめへの対応

第14回：虐待や非行、自殺（念慮）等への対応

第15回：学校内での協働体制づくりや地域の専門機関等との連携

定期試験

スクーリングでの学修内容

スクーリングでは、すべての内容について包括的総合的俯瞰的に取り上げる。

教科書

大野精一 編著（2017）『教師・保育者のための教育相談』萌文書林

参考文献

(1) 大野 精一（1997、Kindle版：2017）『学校教育相談—具体化の試み』ほんの森出版

(2) 大野 精一（1996、Kindle版：2017）『学校教育相談—理論化の試み』ほんの森出版

(3) 日本学校心理学会編（2016）『学校心理学ハンドブック第2版』教育出版

(4) 大野精一・藤原忠雄編著（2018）『学校教育相談の理論と実践—学校教育相談の展開史、隣接領域の動向、実践を踏まえた将来展望—』あいり出版

その他レポート返却時やスクーリング等で随時配布・指示する。

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。